

相模原市立 市民・大学交流センター ユニコムプラザ さがみはら 大学地域連携支援（橋渡し）のご案内

大学地域 連携事例集

2025 年 3 月発行



当施設での連携 支援のメリット

- 連携相手の目途がない場合でも、連携先が見つかる可能性があります。
- 当施設は直接の当事者でないので、聞きにくいことでも気軽にご相談いただけます。

お気軽に ご相談ください

- 原則として初回の相談は、対面でお話をお伺いします。お手数ですが事前にお電話で、相談日程の調整をお願いします。
- 初回相談後はケースバイケースです。

電話 : 042-701-4370

午前 9 時から午後 5 時

（年中無休（休館日、年末年始除く））

※担当者不在の場合は、折り返しの連絡とさせていただきます。

幅広い大学ネットワーク

当施設の運営法人である相模原・町田大学地域コンソーシアムの会員大学を中心に、幅広いネットワークを活かした連携支援を行います。

- ① 相模原・町田大学地域コンソーシアム会員大学等
青山学院大学、麻布大学、和泉短期大学、桜美林大学、北里大学、相模女子大学 / 相模女子大学短期大学部、サレジオ工業高等専門学校、昭和薬科大学、女子美術大学、多摩大学、玉川大学、多摩美術大学、東京家政学院大学、東京造形大学、法政大学、山野美容芸術短期大学、和光大学

- ② 当施設の独自ネットワーク※1

横浜国立大学、産業能率大学、神奈川工科大学、横浜美術大学、町田製菓専門学校、東京工芸大学

※1：①を除く、当施設の情報コーナー出展の大学等

連携検討の際の留意点

- ① 連携には団体、大学・学生双方にウィンウィンであることが大切です。
- ② 連携は必ずしも成立するとは限りません。
- ③ 市内、近隣大学の情報について網羅的に把握しているわけではありません。ご要望に応じて当施設のネットワークを活用し連携先探しのお手伝いをします。
- ④ 当施設への相談は無料ですが、実際の連携に際しては、個別案件に応じて謝礼その他実費などが必要な場合があります。
- ⑤ 学生との連携をご希望の場合、学生にとって、参加しやすさや活動に関わる意義※2を感じられるようご配慮ください。

※2：学生の参加しやすさや活動に関わる意義
（イメージ）

以下の項目が全て必要ではありませんが、こうした観点から総合的に検討し、ご配慮ください。

- 参加しやすさ**：参加の入口として気軽に体験的な仕組み／交通費、その他実費などの支援
- 意義**：そのプロジェクトでなければ得られない経験や学び／就活などのシーンで語ることができる思い出／普段の生活ではできない出会い など



大学や学生と連携してみたいとお考えの皆様、ユニコムプラザさがみはらまで、お気軽にご相談ください！

ユニコムプラザさがみはらは
小田急線相模大野駅下車徒歩 5 分！

発行：相模原市立 市民・大学交流センター
（愛称：ユニコムプラザさがみはら）
〒252-0303 相模原市南区相模大野 3-3-2
bono 相模大野 サウスモール 3 階

（指定管理者）
公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム

地域団体と大学・学生の連携

①子育て支援勉強会

NPO 法人子育て応援団 With 2023 年度
× 相模女子大学子育て支援センター

NPO 法人子育て応援団 With は、発達支援の現状やその対応などについて専門的な知見を得るため、相模女子大学子育て支援センターの東都ガール教授を招いた勉強会を開催。子育て広場等の現場での困りごとなど、スタッフによる事前まどめを踏まえ、同教授から具体的な助言を得ることができ、勉強会は深い学びの場となりました。

以降、同センターの夏祭りに同団体が参加するほか卒業論文の研究等のために学生が同団体の活動に参加するなど交流が続いています。



勉強会の様子

②つながるフェス ふたご・みつご and more ～ふたご・みつごちゃん集まれ

つながるフェス実行委員会 2023 年度
× 和泉短期大学・北里大学看護学部



和泉短期大学学生によるお店屋さんごっこ (2024 年度)

多胎妊娠、多胎育児中のパパママ応援&交流イベントに、和泉短期大学と北里大学看護学部の学生が参加しました。

和泉短期大学の学生は、ペットショップやおにぎり屋さんなど自作で“お店屋さんごっこ”を展開。北里大学看護学部の学生は、妊婦体験・赤ちゃんモデル抱っこ体験ワークショップを運営しました。このほか同イベントで実施した、各プログラムにボランティアとしても参加いただきました。

③地域情報サイト

「相模原ジャーニー」ロゴマーク制作

相模原市橋本倫理法人会 2023 年度
× 美術大学学生

2024 年 4 月に誕生の相模原に特化した情報サイト「相模原ジャーニー」のロゴデザインを、女子美術大学学生がデザインしました。コンセプト、デザ



インについて何度もすり合わせを行い完成したマークは同サイトのシンボルとして使用されています。



検討中のラフスケッチ

④団体のロゴマーク制作

着物 de 文化フォト未来事業 2023 年度
× 横浜美術大学

着物 de 文化フォト未来事業は、経済的理由で七五三や成人の記念写真が撮影できない家庭のために、和装による記念撮影を支援するプロジェクト。

ロゴマークは、横浜美術大学ビジュアルデザイン研究室の副手、高橋里奈さんに制作いただき、同団体のホームページや SNS などで活用されています。



団体の Instagram で使用されるロゴ

⑤「おーのじかん」

キャラクターデザイン制作

おーのじかん事務局 2023 年度
× 相模女子大学生生活デザイン学科

「相模大野まちなか手づくり体験工房おーのじかん」は、相模大野のお店でハンドメイドレッスンを楽しんでもらう企画です。

このマスコットデザインを相模女子大学生生活デザイン学科学生が制作しています。授業の一環として取り組まれており、これ以降も継続的にデザイン制作が続けられています。



制作されたキャラクター

⑥木の立体パズル

さがまち学生 Club
× MORIMO

2024 年度



相模原・町田地域を中心に街を盛り上げる活動を行う学生団体「さがまち学生 Club」が主催する「つながりマルシェ」において、さがみはら津久井産材を中心としたモノづくりを行う MORIMO（一般社団法人さがみ湖 森・モノづくり研究所）と連携。学生 Club の学生が、

作品の企画、デザインを行い、MORIMO が木材加工を担当。試作を重ね完成し、イベントでパズルを使用するとともに学生が MORIMO の活動の PR を行いました。



企業と大学・学生の連携

⑦神奈川県産「丹沢滋黒軍鶏」を活用したレシピ開発

(株) 山路フードシステム
× 相模女子大学健康栄養学科本間研究室

2024 年度



フードサービス、レストラン・カフェ、畜産を展開する山路フードシステムが養鶏を手掛ける「丹沢滋黒軍鶏」を使ったレシピ開発が相模女子大学健康

栄養学科本間研究室において卒業研究の一環として実施されました。

同社から食材となる鶏肉の提供を受け、学生によるレシピ研究が行われ、1 月にはレシピ引き渡しとともに試食会が開催されました。「ささみの和風キッシュ」、「鶏むね肉のサンドイッチ」、「鶏むね肉のくるみ味噌焼き」が提案され、今後、同社「カフェワイルドチキン」において、レシピの活用について検討されます。



開発レシピによる三品

⑧相模大野中央公園キッズフェスタ

麻溝公園グループパートナーズ
(代表者 横浜緑地 (株))
× 学生ボランティア

2024 年度

相模原市の「子育て支援公園」である相模大野中央公園の指定管理者、麻溝公園グループパートナーズ（代表者 横浜緑地 (株)）が学生ボランティアと連携した子ども向けワンデーイベントを実施。相

模女子大学、桜美林大学から参加した 17 名は、ボール転がしや昔遊びなどのブース運営を担当しました。



⑨ライトアップおおの親子 de ライトづくりワークショップ

麻溝公園グループパートナーズ
(代表者 横浜緑地 (株))

2024 年度

× 田中敬一玉川大学学術研究所特別研究員
× 学生ボランティア

相模大野中央公園の指定管理者である麻溝公園グループパートナーズ（代表者 横浜緑地 (株)）が冬の暗い公園を親子でつくる温かい灯りでホッとする空間にするイベントを構想。

企画、運営は、田中敬一玉川大学学術研究所特別研究員に協力をいただき、玉川大学、相模女子大学、青山学院大学の学生 10 名が運営サポートに当たりました。10 月にワークショップでランタンを制作し 12 月に点灯、展示会を実施しました。



ランタンワークショップ



ライトアップ

⑩小田急まちだの駅弁かけ紙デザイン

小田急電鉄（町田駅）
× 美術大学学生

2024 年度

小田急線町田駅の駅員さん発案による駅弁のかけ紙デザインを学生が描くプロジェクト。これまで販売されている駅弁のかけ紙は小田急の社員さんが描いたものですが、これを学生が制作する取り組みです。

コンペで参加を募集し、2025 年 5 月ごろから順次学生デザインの駅弁が販売される予定です。



2024 年 9 月に販売のまちだの駅弁。デザインは小田急の社員さん。

⑬相談指導教室の創作活動での大学アウトリーチプログラムとの連携

相模原市教育委員会
青少年相談センター南相談室
× 桜美林大学

2023 年度

草の根国際理解教育支援プロジェクト※

適応指導教室（学校を長期にわたり欠席している児童生徒に対して指導や支援を行う教室）における制作活動において桜美林大学 草の根国際理解教育支援プロジェクトにより、多様な文化、教材に触れる機会として世界のあそび（けん玉）を題材とした授業が実施されました。

※桜美林大学の地域貢献事業の一環として、学内外で国際理解や多文化共生を促進する教育を支援する組織。様々な機会で取組を実施しています。



⑪アプリ開発に学生意見反映

株式会社 wowp
× 学生団体 Yippee

2024 年度

一文字も入力しないお出かけアプリ「wowp（ワープ）」より効率的で効果的なアプリとなるよう利用者の立場として学生の意見を聞くため、社員と学生がアプリを使ったまちあるきを行い、事後には検証ワークショップを実施。「なるほど」と思わせる学生の意見がいくつも出される有意義な場となりました。



ワークショップの様子

⑭若い世代向けの骨粗しょう症予防啓発活動

北里大学看護学部
× 相模原市保健所南保健センター

2024 年度

若いころからの予防が重要な骨粗しょう症。効果的な啓発を実施するために、南保健センターが看護を学ぶ学生とともにイベント企画運営しました。イベントはユニコムプラザさがみはらのまちづくりフェスタに参加する形で行われ、学生は、4 年生は授業の一環として、2 年生は有志として参加しました。当日は学生による来場者向けの骨粗しょう症の説明や「つよいほねをつくろう！」という子ども向けのゲームを実施しました。



行政・学校と大学・学生の連携

⑫学生による学校支援ボランティア

学生 × 市内小学校

2024 年度

教員を目指す学生ボランティアが鶴の台小学校で活動しています。学生たちは、子どもたちに積極的に関わろうとする姿勢があり、子どもにも人気が、大変よい学びの場となっているとのことです。



⑮大学の講義に公民館職員が登壇

2024 年度

地域課題について考える大学の授業のなかで、公民館職員とともにユニコムプラザさがみはらの職員も登壇し、講義・対談を軸とした学生達の意見交換が行われました。地域形成における大学の位置や、大学と社会教育機関との連携の在り方を考えあう大変良い機会となったとのことです。

